

令和5年度第2回小規模多機能型居宅介護事業所

「紙ふうせん」運営推進会議議事録

日 時：令和5年6月22日（木）10：30～11：30

場 所：野栄福祉センター 1階和室

出席者：大木公正 大木健守 伊野喜代司 及川大樹 太田奈津栄 小川秀文
江波戸勝 高齢者支援課 外口

社協	渡辺副会長	局長
紙ふうせん	佐藤	

●開会のことば 渡辺副会長

●委員長あいさつ

●議題

(1) 令和4年度4月・5月運営状況及び利用実績の報告について

委員長：以上報告があったが何か質問はあるか。

及 川：相談件数3件、見学者2名とあるが利用の意思があって見学にくるのか。

佐 藤：当然利用の意思がある。しかしその人に合う、合わないということがあるので、見学を勧めている。相談のうち1件は以前紙ふうせんで働いていた人なので様子が分かっているため見学はしていない。見学のうち1名は他の事業所を利用しているが、本人が家族に相談なし来てしまい家族や担当のケアマネと話をし、今の事業所を変更しない方がいいということになった。

小 川：要介護3から5の利用者がいないが要介護3以上の高齢者の在宅介護は難しいのか。

佐 藤：紙ふうせんでも状況、状態によっては要介護3以上の方でも利用できるが、在宅で介護度の高い高齢者を看るのは大変なので、多くは施設入所を希望している。

江波戸：父が要介護3だったが、身体も動かないので介護は大変だった。しかし施設利用は嫌がり説得するのに苦労した。

委員長：利用を嫌がる話はよく聞く。

外 口：自分はしっかりしていると誰しも思っているのでサービス利用まで時間がかかる人はいる。

委員長：コロナも5類になったのでそろそろ行事を充実させてはどうか。

佐 藤：8月にはナミキ楽団を予定している。

委員長：以前は推進会議も行事に合わせて紙ふうせんで行っていた。紙ふうせんの様子ができる良い機会だった。サンマやそば打ちは難しいが、先日植えた芋が収穫できたら焼き芋をやればいい。いろいろな行事があったほうが施設も活気がでる。

佐 藤：利用者も年齢が上がるにつれ、外出レクなどは参加しない利用者もいる。実際芋苗植えなどは転倒の危険があるので3人しか参加できなかった。

委員長：利用者が楽しめるものを企画して欲しい。

大 木：ふれあい祭りが7月22日の4時からあるが、その時間の参加は可能か。

佐 藤：3時半には利用者を送ってしまうので難しい。

(2) その他について

局 長：①令和4年度の紙ふうせんの収支についての説明

収支は3つに分かれている。事業活動費は193,114円の黒字、施設整備費はボイラー交換に236,000円かかったが、それに対する収入が無いため赤字となっている。その他の活動による収支では退職金等の積み立てで425,500円の赤字。

3項目の合計で468,386円の赤字だが、事業見込みではトントンになっている。

事業活動費で若干の黒字が出たのは最後の補正予算の数字となっており、補正予算で水道光熱費・燃料費・給食材料費を増やしている。人件費を社協全体で調整している。

②事業所の運営規定に関する説明

別紙参照

●閉会のことば 渡辺副会長